

私に何ができるのか

東日本大震災の被災地を訪ねて NPOむさしうらわ街ネット代表 田中和義さん



▲瓦礫と化した住宅地で泳いでいたいのぼり
5月4日、岩手県陸前高田市

5月2日深夜、東北に向けて出発した。未曾有の災害を目の当たりにして何も動かないことはNPO活動をしてきた人間として、敗北だと感じていた。「何か出来ることがあるはずだ」。子どもを楽しませる縁日の道具を積み込み、知り合いと二人で東北に向った。

岩手県の「遠野まごころネット」が、当日でもボランティアを受け入れていることをインターネットで知り、向かった。早速、子どもの支援をしたい旨を伝えると、あちこちに連絡を取ってくれた。結局どこも受け入れられない状況で、瓦礫の中から腐った魚を回収する活動に加わることにした。被災した冷凍倉庫から大量のサンマやサケ、イクラが流れ出し、街じゅうに異臭を放っていたのだ。

朝6時過ぎ、何百人のボランティアが作業着姿で集合。一人で参加している若い女性や初老の夫婦、日本語が話せない外国人もいた。バスで向かった先は陸前高田市。1時間半ほど走ると、車窓から被災の様子が目に飛び込んで来た。流木や車の残骸が転がる河川敷。街には、ただただ瓦礫の山が広がり、遠くまで見渡せる。その惨状に涙が出てきた。

すべての日本人が現地に行き、じかに見、聞き、知るべきだと感じた。作業は各班20人ほどに分かれて行った。汚れは覚悟していたが、悪臭はつらい。しかし、根をあげる者はいない。サンマなどが埋まっている場所は、独特の匂いと油が染み出た土の色で分かる。連日の作業を経ているため、ただ漠然と探しても見つからない。悪臭のする場所を掘り当てる感じだ。1カ所で4~5回ずつ一輪車に乗せて運ぶ。1回30kgぐらいで、私たちの班だけでも700kg以上は掘り出した。

帰り道、壊れた建物の前に高々と「いのぼり」が掲げられていた。胸が詰まる一方、希望も感じた。4日後、太平洋沿岸に沿って南下して帰ってきた。市町村や地域によって異なる被災や復旧の様子。被害が無い場所との落差も激しかった。日常と非常時が同居する被災地で、私たちに何ができるのか自問した。



▲瓦礫の中から腐った魚を掘り出すボランティアの人たち=5月4日、岩手県陸前高田市

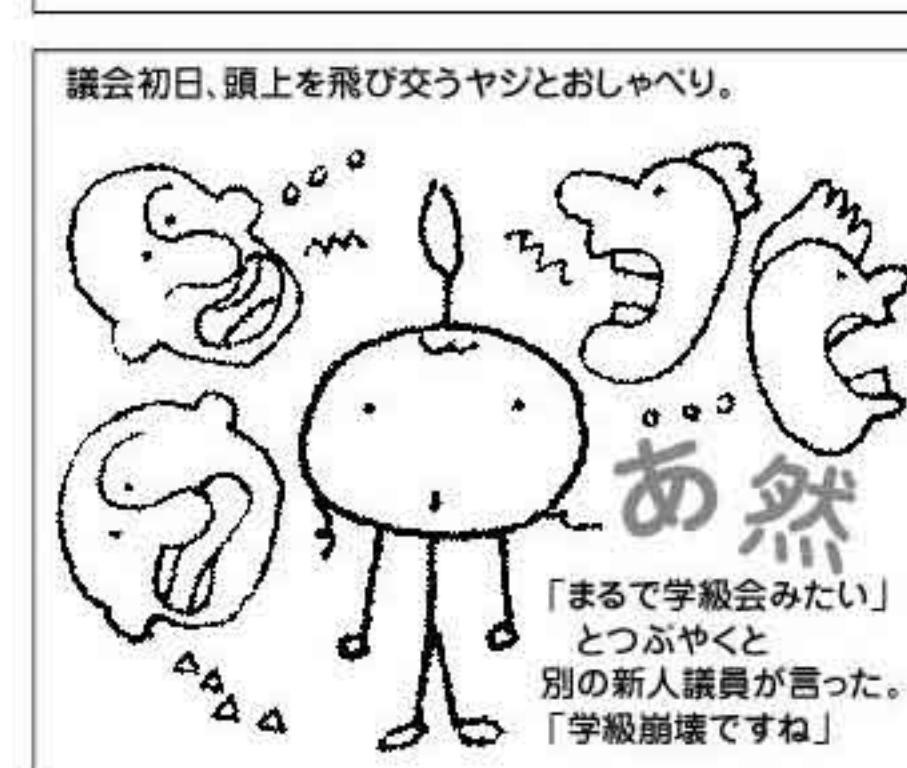
みかんの物語 初めての議会



5879票の得票でさいたま市議選に当選！晴れて、議員に。



記者時代、県議選を担当していたもののさいたま市議選ははじめて。



事務局だより

禅の書物に「6月火雲飛白雪」という言葉がある。6月の火雲白雪を飛ばすと読む▼夏の雲が雪を降らせることもある。人間、世の中の常識にとらわれてはいけないという意味だ▼私の座右銘だが、今回の選挙は、こういう思いで戦った。ズブの素人の、しかも老い先短い老骨が「事務局長」という大役につくとは、選挙の世界では常識外のこと。しかし、結果は2位当選▼支えてくれた皆さん、ありがとうございます！ かおりさん、よくやったね。お疲れさま…。最後まであきらめなかったなでしこジャパンにも拍手。(中村)

6月定例議会 防災対策、節電に本腰

改選後初めての6月定例市議会は6月8日から7月1日まで24日間の日程で開かれました。富田かおり議員は、新しく結成された会派「改革フォーラムさいたま市議団」(無所属6、みんなの党1)に所属。最終日には会派を代表して登壇し、討論に臨みました。6月議会の主要ポイントをお知らせします。これからも開かれた議会を目指し、現場感覚を忘れることなく市民目線で政策提言をしていきます。

震災対応に9億4600万円

6月の補正予算は、東日本大震災にかかる災害復旧、防災機能強化、節電・省エネ対策が柱となりました。

震災関連の一般会計補正予算は約9億4600万円。主な事業は、公民館の耐震補強▽LED街路灯の設置促進▽節電対策に取り組む中小企業や商店街への支援融資—などです。特に校舎が一部崩壊した西区の栄小学校は学校生活全体に支障が出ており、児童の安全な学習環境を一刻も早く取り戻す必要があります。

東北の被災地のみならず、さいたま市民も未曾有の被害に直面した大震災。だからこそ、この「震災後」を危機管理体制の見直しや市民生活の安心・安全を再構築する「転換期」にしていかななくてはなりません。

南区関連では、武蔵浦和駅西口に建設中の公共施設内にコミュニティセンターや老人福祉センター、図書館を設置するための改正条例も可決されました(詳しくは中面参照)。

放射線量を独自測定 比較データなく、住民に不安も

東京電力福島第1原発の事故を受け、さいたま市では学校や公共施設を中心に空間放射線量の測定調査を行っています。2学期開始をめぐりに給食用食材の検査も開始



▲震災で被害を受けた別所沼公園(詳しくは中面「南区トピックス」参照)



▲初めての議会の最終日、登壇して討論に立つ富田かおり市議
=7月1日、さいたま市議会

する予定です。

6月に先行実施した市内20の公立保育所・幼稚園・小中学校調査では、校庭の放射線量は毎時0.06~0.10マイクロシーベルト。市内10公園の芝生や砂場周辺の放射線量は毎時0.06~0.12マイクロシーベルトで、いずれも年間被ばく量に換算すると、国際放射線防護委員会(ICRP)が勧告する許容限度の年間1ミリシーベルトを下回りました。

しかし、これらの数値には比較材料がなく、各市町村が独自に被ばく限度量を設定するなどの対応を取らざるを得ないのが現状です。「安心・安全」の判断を自治体だけに任せるには限界があり、放射線に対する住民の不安に真に答えられるものではありません。国が明確な統一基準値を示すべきです。

基準値明示求め、国に意見書

さいたま市議会は、子どもの年間被ばく線量の基準値を政府が早急に明示することを求める意見書を全会一致で可決、意見書を国に提出しました。

知恵と力を貸してください。

富田かおりの政治活動を手伝ってくださるボランティアを募集しています。富田かおりの姿勢に賛同いただける方、一緒にまちづくりを考え、行動して下さる方。また、ご意見もお寄せください。

みんなの党

あなたの声をお聞かせください

Fax.048-755-9747 Email: tomita@minnanokaori.net

CONTENTS 2・3 特集「どうなってる!? 南区待望の大型公共施設」
4 被災地を訪ねて/「みかん物語」初めての議会

特集 どうなってる!? 南区待望の公共施設棟

来年5月オープンへ 渋滞、教育整備に課題も

駅直結の区役所をはじめ、子育て支援や老人福祉の拠点施設など5つの公共施設が入る武蔵浦和駅西口の再開発ビルの建設工事が急ピッチで進んでいます。合併時の構想から10年がかり。南区民待望の大型公共施設が来年5月のオープンへ向け、いよいよ姿を現しました。一方で、交通渋滞や人口増に伴う学校施設拡充など課題も少なくありません。

武蔵浦和駅西口再開発



少なかった公共施設

武蔵浦和駅周辺地域は、鉄道アクセスがよく、市内屈指の人口集中地域であるにも関わらず、コミュニティ施設や図書館、老人福祉センターなどの公共施設の整備水準が低いまでした。市民活動が盛んな地域の割に集会室や多目的ホールが不足しているとの指摘もありました。

地域住民の長年の要望に応えるため、さいたま市の公共施設適正化方針に基づき、建設計画が進められてきました。

課題 田島通りの渋滞解消は?

慢性的な渋滞問題を抱える田島通り(大谷場高木線)は武蔵浦和駅前に大型公共施設ができることで、ますますの混雑が予想されます。バイパス方面から来た車が駅前を通過し国道17号へ抜けられるよう環状道路の内谷別所線が平成27年度までに開通する予定ですが、公共施設完成から3年以上あとになります。環状道路だけでは渋滞が田島通りとの交差点に移動するだけという声もあり、東西道路の新設が必要との指摘もあります。

DATA	
8・9階	コミュニティセンター
7階	老人福祉センター
4~7階	区役所
2・3階	図書館
1階	子育て支援センター

区役所は4~7階 待望の図書館、3割が児童書

公共施設棟は9階建て。1階は子育て支援センター、2・3階の図書館(1300㎡)は吹き抜けを生かした開放的な空間となります。蔵書数は約8万冊。子育て世代、若者が多い地域であることから、児童書の割合が約2万4千冊(全蔵書数の30%)と他の図書館(同25%前後)に比べ高め。出産・育

児本の専門コーナーやヤング(中高生向け)コーナーも設けます。来年6月1日オープン予定。JR武蔵浦和駅から直結の区役所は4~7階。7階には老人福祉センターを併設。8・9階は多目的ホールや音楽室を備えたコミュニティセンターとなり、生涯学習の拠点としても期待されます。

課題 人口増に対応した保育と教育は?

駅前整備に併せて高層マンションも建設ラッシュです。今後、通学区域の浦和大里小学校では児童数が一時的に増加が見込まれるほか、現状でも不足している保育所の整備も求められます。しかし一方で、児童数の増加は一時的な現象であり、少子化の流れでは長くは続かないことも指摘されています。新校建設や通学区域の変更予定はありません。空き教室の活用や保育の場の確保も含め、課題となっています。

南区トピックス

◆被災した別所沼公園、改修工事完了

3月11日の東日本大震災により地盤沈下が起きた別所沼公園。ウレタン走路が隆起してでこぼこした状態となったほか、公園南側デッキ及び橋の一部破損、東西園路に亀裂が入るなど被害が生じた。改修工事はこのほど完了し、元の姿を取り戻しました。

◆南浦和駅に改札内エレベーター設置へ

昭和39年の開設以来、バリアフリー化が長年の検討課題だった南浦和駅。市とJR東日本で協議を続けてきた結果、駅舎改修に先立ち今年度、改札内エレベーターの設計に着手することになりました。今後も、老朽化した駅舎全体の修繕とバリアフリー化を実現するよう、粘り強く要請していきます。

◆武蔵浦和駅周辺、路上喫煙・ポイ捨て禁止に

「さいたま市路上喫煙及び空き缶等のポイ捨ての防止に関する条例」に基づき6月1日から、JR武蔵浦和駅周辺での路上喫煙と空き缶等のポイ捨てが禁止に。環境美化指導員が巡回・指導しています。南区内では南浦和駅周辺に続き2カ所目の重点地区指定。きれいな街づくりのため、区民のみなさんご協力をお願いします。

議会こぼれ話~かおりのブログから(抜粋)

騒ぎすぎ?(6月15日)

新人議員には分からないことがたくさんある。議会のルール、事業の仕組みや経緯…。分からないから先輩議員や担当課の職員さんに聞く。

新聞社に在籍していた時、取材対応をしてくれる職員によく聞かれた。「これは記事にするんですか?」。そして、議員になっても同じことを聞かれる。「あの~こ

れは何か、議案外質問に関する問い合わせでしょうか」。時に訝しがられることも。疑問点を問い合わせるのは議員の調査活動として当たり前だと思うのだが、不思議だ。

市が独自調査を決めた放射線量測定に関して、執行部から説明を受けていた時のこと。ある幹部職員が言った。「(市民が)騒いでいるのは(通常時の放射線量レベルである)毎時0.05マイクロシーベルトの

範囲なんですよ」「1時間あたりに自然界から受けている放射線量と変わらないんです」「マスコミがあまりすぎなんですよ」。しかし、放射線量と放射性物質に関する問い合わせが市に1,000件以上も来ている現実。私のところにも子どもへの影響を心配する保護者の声が寄せられる。市民は「安心・安全」の客観的な判断材料が欲しいのだ。納得できるような情報を開示し、ひいては市民の不安を解消させて

ゆくことが、行政に求められる役割ではないのか。

「あおるマスコミ」にいた立場から言わせてもらえば、大事なのは市民と役所、どっちの方向を向いて仕事をするのかということ。市民に選ばれた議員は、市民の側に立つのが当たり前だと私は思っている。さいたま市はもっと広報活動に工夫を凝らすべきだろう。行政側が「騒ぎすぎ」なんて言ったらおしまいなのである。



<http://www.minnanokaori.net/blog/>